

琉球松の落ち葉から始まる“わらしべ長者”物語 ～SDGsの発想で生物資源を見直してみる～

沖縄高専

生物資源工学科・池松真也(オキハム)

共同研究

本研究では、琉球列島の固有種であるリュウキュウマツの新規機能性を探索した。リュウキュウマツ葉抽出物をマウスに投与した結果、リュウキュウマツには中性脂肪を低下させる効果があることが示唆された。そこで、リュウキュウマツ葉抽出物を添加した食品開発を行うことで、リュウキュウマツの新たな利用法を検討した。

リュウキュウマツ(*Pinus luchuensis*)

- ・琉球列島固有種
- ・抗肥満効果やLDLコレステロール値減少効果
- ・現在はパルプや木工に利用されている
- 道路などの落ち葉が未利用であり課題

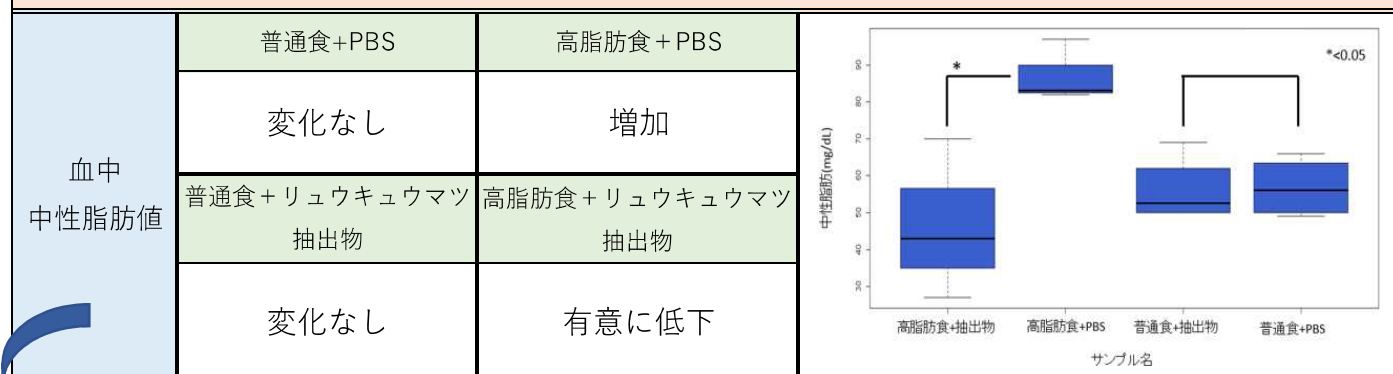


リュウキュウマツの新規機能性を探索する必要あり！

◎マウスに抽出物を投与し、血中中性脂肪値を測定した



4群(4匹/群)で評価し、2ヶ月間の投与を継続した。投与の前後で血中中性脂肪値を測定した。



高脂肪食を摂取した際、同時にリュウキュウマツ も摂取すると
血中中性脂肪が下がる可能性がある！

機能性食品としての活用

リュウキュウマツを
添加したゼリーの開発
県民の健康維持を
手助けする食品へ

SDGsへ



本研究のキーワード

- ・生物資源の利用
- ・リュウキュウマツ
- ・機能性食品開発

連絡先：GEAR5.0
ライフサイエンス拠点構築

ユニットリーダー 池松 真也
ikematsu@okinawa-ct.ac.jp